

## WAYプロジェクト（校内道德教育推進委員会）レポート・10

2019・11/21（木）

### 本日の議題

前回の議論〈15・「よりよい学校生活、集団生活の充実」〉にかかわって、11月19日に行われた大正中学校、大正小学校PTA役員意見交換会（小中管理職出席）で話し合われた内容の報告があり「よりよい学校」について考えました。

「様々な課題について小学校の保護者からの生の声が多かったのでびっくりした。」

「小学校から中学校への質問に対してどんな答えをしたのですか？」

「現在行っている取組を伝えた。小学校の保護者は中学校の取組をほとんど知らない」

「現在の中1についてのアレルギーが小学校の保護者の中に多いことを感じる」

「大中祭の劇の“19人”についての説明をした」

「現在の中1は本当にがんばっている」

「昨年の小6の中学校へ入ってからの変化はみんなが認めている。しかしまだまだ信じられていないのでは」

「小学校から私立へ行かせる親も現在多い。しかし、その理由がわからないまま行かせている状態もあるのではないかとイメージで行かせていることもある。塾でもそうであるが“お守り”として塾に行かせている親御さんもおられる。それぞれの学校の特色をしっかりと知ることが大切」

「それぞれの親の学校に対するニーズもちがう。すべてのニーズに応えることは



今日の状況では厳しい。すべてのニーズに応えることよりも学校としての特色を打ち出すことも必要」

「大正中の温かいところをどう伝えていくか？」

「今の中1はとてもがんばっている！中学校からも小学校へどんどん伝えるべき」

「PTA役員・管理職意見交換会の取組も昨年の出来事から出来てきたことである」

「連携の課題も見えてきている」

「“非認知能力＝見えない学力”が幼い時より課題となる事例もある。“非認知能力＝見えない学力”を育てるために、シンプルな取組をアピールすることも大切。例えば“傾聴力”“読解力”など」

「レイジングハンドプログラムをやって子どもの学ぶ姿勢が確実に変わってきた」

「学力向上についての小中の温度差を感じる。教員の資質の向上についての取組の温度差」

「クラス編成の時“あの子と離してほしい”という声が親の中でよく出る」

「一つのクラスの中でタイプのちがう子どもどうしがぶつかりながらわかり合っていくのが大正中の伝統である。一人はみんなのために。みんなは一人のために」

「子どもはわかりあっても、親どうしがこじれる場合もある。そこはPTAが担わなければならない所でもある」

「学校の姿勢が親をよけいにこじれさせるというのもあるのではないか」

「大正校区のつながりが課題克服のカギをにぎる」

「小中一貫についてどうですか」

「小中一貫が特効薬ではない」

今日は何人かなあ？と話していましたが、仕事が終わりに来てくれた中西さん、斉藤さん、他校の松田さん、高校の森本先生と1人ずつ増えていき、結

局、会議室がいっぱいになりました意見交換会に対して意見がたくさんだったので、終了の時間が来てここまでとなりました。

次回は

16・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。」

についてです。

※明日の28日（木）は期末テスト期間中のため、お休みです。

次回は12月5日（木）、みなさんのご参加、お待ちしております！！